

第1章 防水工事

問題. 1 アスファルト防水工事

令和6年度前期 No.23

アスファルト防水における屋根保護防水密着工法に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) 保護コンクリートに設ける伸縮調整目地は、中間部の縦横間隔を3m程度とした。
- (2) ルーフィング類は、継目の位置が上下層で同一箇所にならないようにして、水下側から張り付けた。
- (3) コンクリート立上り部は、打放し仕上げとし、型枠の締付け材にコーンを使用した。
- (4) 平場部のルーフィングと立上り部のルーフィングとの重ね幅は、100mmとした。

能力問題

問題. 2 アスファルト防水工事

令和4年度後期 No.41

屋上アスファルト防水工事に関する記述として、不適当なものを2つ選べ。

- (1) ルーフィング類は、水上部分から張り付け、継目の位置が上下層で同一箇所にならないようにした。
- (2) ルーフドレン回りの増張りに用いるストレッチルーフィングは、ドレンのつばに100mm程度張り掛けた。
- (3) 保護コンクリートの動きによる立上り防水層の損傷を防止するため、成形緩衝材を立上り入隅部に取り付けた。
- (4) 保護コンクリートの伸縮調整目地の深さは、保護コンクリートの厚さの1/2とした。

問題. 3 アスファルト防水工事

令和3年度前期 No.23

アスファルト防水工事に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) 防水下地となるコンクリートの入隅の形状は、通りよく45°の面取りとした。
- (2) 平場部のアスファルトルーフィングの重ね幅は、長手及び幅方向とも100mm以上とした。
- (3) 平場部のストレッチルーフィングの流し張りは、ルーフィングの両端からアスファルトがはみ出さないように押し付けながら張り付けた。
- (4) 砂付あなあきルーフィングを用いる絶縁工法の立上り部は、砂付あなあきルーフィングを省略した。

能力問題

問題. 4 合成高分子シート防水

令和5年度後期 No.41

合成高分子系ルーフィングシート防水の接着工法に関する記述として、不適当なものを2つ選べ。

- (1) 加硫ゴム系シート防水において、プライマーを塗布する範囲は、その日にシートを張り付ける範囲とした。
- (2) 加硫ゴム系シート防水において、接着剤を塗布後、オープンタイムを置かずにシートを張り付けた。
- (3) 塩化ビニル樹脂系シート防水において、シートを張り付けるエポキシ樹脂系接着剤は、シート裏面に塗布した。
- (4) 塩化ビニル樹脂系シート防水において、防水層の立上り末端部は、押え金物で固定し、不定形シール材を用いて処理した。

問題. 5 合成高分子シート防水

令和3年度後期 No.23

加硫ゴム系シート防水接着工法に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) プライマーを塗布する範囲は、その日にシートを張り付ける範囲とした。
- (2) 下地への接着剤の塗布は、プライマーの乾燥後に行った。
- (3) シートは、接着剤を塗布後、オープンタイムを置かずに張り付けた。
- (4) 仕上げ塗料塗りは、美観と保護を目的に行った。

問題. 6 塗膜防水

令和7年度前期 No.23

ウレタンゴム系塗膜防水の密着工法に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) 下地のコンクリートは、出隅を面取り、入隅を直角に仕上げた。
- (2) 補強布の張付けは、突付け張りとした。
- (3) 平場部の防水材の塗付けは、工程を2回に分割して行った。
- (4) 防水材の塗継ぎは、重ね幅を100mmで行った。

問題. 7 塗膜防水

令和5年度前期 No.23

ウレタンゴム系塗膜防水絶縁工法に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) 不織布タイプの通気緩衝シートは、接着剤で張り付けた。
- (2) 通気緩衝シートの継目は、隙間や重なり部をつくらないようにシート相互を突付けとし、ジョイントテープを張り付けた。
- (3) 穴あきの不織布タイプの通気緩衝シートは、下地に張り付けた後、防水材でシートの穴を充填した。
- (4) 通気緩衝シートは、防水立上り面まで張り上げた。

能力問題

問題. 8 塗膜防水

令和4年度前期 No.41

ウレタンゴム系塗膜防水に関する記述として、不適当なものを2つ選べ。

- (1) 下地コンクリートの入隅を丸面、出隅を直角に仕上げた。
- (2) 防水層の施工は、立上り部、平場部の順に施工した。
- (3) 補強布の張付けは、突付け張りとした。
- (4) 仕上塗料は、刷毛とローラー刷毛を用いてむらなく塗布した。

能力問題

問題. 9 シーリング工事

令和6年度後期 No.40

シーリング工事に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) 目地深さが深かったため、バックアップ材を用いて所定の目地深さになるように調整した。
- (2) 目地底にシーリング材を接着させないため、ボンドブレイカーを用いた。
- (3) シーリング材と被着面の接着性を良好にするため、プライマーを塗布した。
- (4) マスキングテープは、シーリング材のへら仕上げ終了後、直ちに取除いた。
- (5) 異種シーリング材を打ち継ぐため、先打ちシーリング材が硬化しないうちに、後打ちシーリング材を施工した。

第2章 石工事

問題. 1 表面仕上げ

令和4年度前期 No.23

花崗岩の表面仕上げに関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) びしゃん仕上げとは、石材表面を多数の格子状突起をもつハンマーでたたいた仕上げをいう。
- (2) 小たたき仕上げとは、びしゃんでたたいた後、先端がくさび状のハンマーで平行線状に平坦な粗面を作る仕上げをいう。
- (3) ジェットバーナー仕上げとは、超高压水で石材表面を切削して粗面とした仕上げをいう。
- (4) ブラスト仕上げとは、石材表面に鋼鉄の粒子等を圧縮空気ですたきつけて粗面とした仕上げをいう。

問題. 2 外壁乾式工法

令和6年度前期 No.24

乾式工法による外壁の張り石工事に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) だぼの取付け穴は、工場で加工した。
- (2) 石材の有効厚さは、施工性を考慮して20mmとした。
- (3) 石材の大きさは、石材1枚の幅及び高さが1,200mm以下、かつ、面積が0.8㎡以下とした。
- (4) 幅木は、衝撃対策のため、石材と躯体の隙間に裏込めモルタルを充填した。

問題. 3 外壁乾式工法

令和5年度前期 No.24

外壁の張り石工事において、湿式工法と比較した場合の乾式工法の特徴として、最も不適当なものはどれか。

- (1) 地震時の躯体の挙動に追従しにくい。
- (2) 石材の熱変形による影響が少ない。
- (3) 白華現象が起こりにくい。
- (4) 工期短縮を図りやすい。

問題. 4 外壁乾式工法

令和3年度前期 No.24

外壁の張り石工事において、湿式工法と比較した場合の乾式工法の特徴として、最も不適当なものはどれか。

- (1) 台車等の衝突で張り石が破損しやすい。
- (2) 白華現象が起こりにくい。
- (3) 地震時の躯体の挙動に追従しにくい。
- (4) 工期短縮を図りやすい。

第3章 タイル工事

問題. 1 タイル張り

令和7年度前期 No.24

壁タイル後張り工法に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) 密着張りにおいて、タイルは下部から上部に張り進めた。
- (2) 改良圧着張りにおいて、下地面とタイル裏面の両方に張付けモルタルを塗り付けた。
- (3) 気温が5℃以下になるおそれがあったため、タイル張りの施工を中止した。
- (4) 接着剤張りの接着剤は、壁面に対してくし目ごてを60°の角度を保ってくし目をつけた。

問題. 2 タイル張り

令和6年度後期 No.23

タイル張りに関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) 床タイル張りにおいて、張付け面積が小さいため、下地は貧調合の敷きモルタルとした。
- (2) 床タイルの圧着張りにおいて、張付けモルタルは、塗厚を5mmから7mmとし、1度に塗り付けた。
- (3) 外壁タイルの改良積上げ張りにおいて、小口タイルの1日の張付け高さは、1.5mとした。
- (4) 外壁タイルの接着剤張りにおいて、使用する接着剤は、練混ぜの必要がない一液反応硬化形のものを使用した。

問題. 3 タイル張り

令和5年度後期 No.23

セメントモルタルによるタイル後張り工法に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) マスク張りにおいて、タイル裏面へマスク板を当てて、張付けモルタルを金ごてで塗り付けた。
- (2) 密着張りにおいて、タイルは下部から上部に張り進めた。
- (3) 改良圧着張りにおいて、張付けモルタルの1回に塗り付ける面積は、タイル工1人当たり2㎡とした。
- (4) モザイクタイル張りにおいて、張付けモルタルの1回に塗り付ける面積は、タイル工1人当たり3㎡とした。

問題. 4 タイル張り

令和4年度後期 No.23

壁タイル密着張り工法に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) 振動工具は、タイル面に垂直に当てて使用した。
- (2) 振動工具による加振は、張付けモルタルがタイル周辺からはみ出すまで行った。
- (3) 張付けモルタルの1回に塗り付ける面積は、60分でタイルを張り終える面積とした。
- (4) 目地詰めは、タイル張付け後24時間以上経過してから行った。

能力問題

問題. 5 タイル張り

令和3年度後期 No.41

セメントモルタルによるタイル後張り工法に関する記述として、不適当なものを2つ選べ。

- (1) 密着張りにおいて、タイルの張付けは、下部から上部にタイルを張った。
- (2) 改良積上げ張りにおいて、小口タイルの張付けは、1日の張付け高さを1.5mとした。
- (3) モザイクタイル張りのたたき押えは、紙張りの目地部分がモルタルの水分で濡れてくるまで行った。
- (4) 改良圧着張りにおいて、張付けモルタルの1回に塗り付ける面積は、タイル工1人当たり3㎡とした。

第4章 屋根工事

問題. 1 屋根工事

令和5年度後期 No.24

金属製折板葺に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) はぜ締め形折板は、本締めの前にタイトフレームの間を1mの間隔で部分締めを行った。
- (2) けらば部分の折板の変形を防ぐため、変形防止材を設けた。
- (3) 重ね形折板の重ね部に使用する緊結ボルトの流れ方向の間隔は、900mmとした。
- (4) 重ね形折板のボルト孔は、呼び出しポンチで開孔した。

問題. 2 屋根工事

令和3年度後期 No.24

金属製折板葺の工法に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) 嵌合形折板は、折板を仮葺せずに本締めを行う。
- (2) はぜ締め形折板は、本締めの前にタイトフレームの間を1m程度の間隔で部分締めを行う。
- (3) けらばの変形防止材には、折板の3山ピッチ以上の長さのものを用いる。
- (4) タイトフレームと下地材との接合は、スポット溶接とする。

問題. 3 とい工事

令和6年度前期 No.25

とい工事に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) 硬質塩化ビニル製縦どいは、継いだ長さが10mを超えるため、エキスパンション継手を設けた。
- (2) 鋼板製丸縦どいの長さ方向の継手は、下の縦どいを上の縦どいの中に差し込んで継いだ。
- (3) 硬質塩化ビニル製軒どいは、1本の長さを10m以内とし、伸縮を集水器部分で吸収するようにした。
- (4) 鋼板製軒どいの両端部分は、丸軒どいは耳巻き、角軒どいは折曲げとした。

問題. 4 とい工事

令和4年度前期 No.24

とい工事に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) 鋼板製谷どいの継手部は、シーリング材を入れ60mm重ね合わせて、リベットで留め付けた。
- (2) 硬質塩化ビニル製縦どいは、継いだ長さが10mを超えるため、エキスパンション継手を設けた。
- (3) 鋼板製丸縦どいの長さ方向の継手は、下の縦どいを上の縦どいの中に差し込んで継いだ。
- (4) 硬質塩化ビニル製軒どいは、とい受け金物に金属線で取り付けた。

第5章 金属工事

能力問題

問題. 1 金属の表面仕上げ

令和7年度前期 No.40

金属の表面仕上げに関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) 鋼材の電気めっきとは、母材を電解液中で通電して、表面に皮膜金属を生成させた仕上げである。
- (2) 鋼材の樹脂焼付け塗装とは、樹脂塗料をエアスプレーで塗布した後、所定の温度で焼き付けた仕上げである。
- (3) ステンレス板のエンボスとは、凹凸の模様を施したロールで、その模様を圧延転写した仕上げである。
- (4) ステンレス板のBAとは、研磨材で連続したみがき目がつくように研磨した仕上げである。
- (5) アルミニウム合金の自然発色皮膜とは、有機酸を用いた陽極酸化処理を行い、皮膜の生成と同時に発色させた仕上げである。

問題. 2 金属の表面仕上げ

令和6年度後期 No.24

金属材料の表面仕上げに関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) アルミニウム材の表面に、陽極酸化処理の後、金属塩を含む電解溶液中で二次的な電解処理により着色した仕上げを電解着色皮膜という。
- (2) アルミニウム材の表面に、陽極酸化処理の後、塗装を施した仕上げを陽極酸化塗装複合皮膜という。
- (3) ステンレス材の表面に、化学処理により図柄や模様を施した仕上げをエッチングという。
- (4) ステンレス材の表面に、凹凸の浮出し模様を施した仕上げをヘアラインという。

問題. 3 金属の表面仕上げ

令和5年度前期 No.25

金属の表面仕上げに関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) ステンレス鋼のNo.2Bは、母材を冷間圧延して熱処理、酸洗いした後、適度な光沢を与えるために軽い冷間圧延をした仕上げである。
- (2) アルミニウムの自然発色皮膜は、母材を陽極酸化処理した後に着色や染色を行わず、素地のシルバー色のままとした無着色仕上げである。
- (3) 鋼材の電気めっきは、母材を電解液中で通電して、表面に皮膜金属を生成させた仕上げである。
- (4) 銅合金の硫化いぶしは、母材の表面に、硫黄を含む薬品を用いて褐色に着色した仕上げである。

問題. 4 金属の表面仕上げ

令和4年度後期 No.24

ステンレス鋼板の表面仕上げに関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) 機械的に凹凸の浮出し模様を施した仕上げを、ヘアラインという。
- (2) 冷間圧延後、熱処理、酸洗いを行うことで、にぶい灰色のつや消し仕上げにしたものを、No.2Dという。
- (3) 化学処理により研磨板に図柄や模様を施した仕上げを、エッチングという。
- (4) 研磨線がなくなるまでバフ仕上げをした最も反射率の高い仕上げを、鏡面という。

問題. 5 金属の表面仕上げ

令和3年度前期 No.25

アルミニウム合金の表面処理に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) 陽極酸化皮膜の上に、クリア塗装する。
- (2) 硫黄を用いた硫化処理を行い、褐色に発色させる。
- (3) 化成皮膜の上に、樹脂塗料を焼付け塗装する。
- (4) 有機酸を用いた陽極酸化処理を行い、皮膜の生成と同時に発色させる。

第6章 左官工事

能力問題

問題. 1 セメントモルタル塗り

令和6年度前期 No.40

コンクリート壁下地のセメントモルタル塗りに関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) 下塗り、中塗り、上塗りの各層の塗厚は、6mm程度とした。
- (2) モルタルの1回の練混ぜ量は、60分以内に使い切れる量とした。
- (3) 乾燥収縮によるひび割れの防止のため、保水剤を混和剤として使用した。
- (4) 下塗り後、むらが著しかったため、中塗りの前にむら直しを行った。
- (5) 上塗りモルタルの調合は、下塗りモルタルよりも富調合とした。

問題. 2 セメントモルタル塗り

令和5年度後期 No.25

コンクリート壁下地のセメントモルタル塗りに関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) 吸水調整材は、下地とモルタルの接着力を増強するため、厚膜となるように十分塗布した。
- (2) 下塗りは、吸水調整材塗りの後、3時間経過してから行った。
- (3) つけ送りを含まず総塗り厚が40mmとなる部分は、下地にアンカーピンを打ち、ネットを取り付けた。
- (4) セメントモルタル張りのタイル下地となるモルタル面は、木ごてで仕上げた。

問題. 3 セメントモルタル塗り

令和4年度後期 No.25

コンクリート壁下地のセメントモルタル塗りに関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) 下塗りは、14日以上放置し、十分にひび割れを発生させてから次の塗付けにかかった。
- (2) 乾燥収縮によるひび割れの防止のため、保水剤を混和剤として使用した。
- (3) モルタルの1回の練混ぜ量は、60分以内に使い切れる量とした。
- (4) 上塗りモルタルの調合は、下塗りモルタルよりも富調合とした。

問題. 4 セメントモルタル塗り

令和3年度後期 No.25

コンクリート壁下地のセメントモルタル塗りに関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) 下塗り、中塗り、上塗りの各層の塗り厚は、6mm程度とした。
- (2) 下塗りは、吸水調整材塗りの後、3時間経過後に行った。
- (3) 下塗り用の砂は、ひび割れを防止するため、粒度が粗いA種の砂を用いた。
- (4) 吸水調整材は、下地とモルタルの接着力を増強するため、厚膜となるように十分塗布した。

問題. 5 床コンクリートの直均し仕上げ

令和4年度前期 No.25

床コンクリートの直均し仕上げに関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) 床仕上げレベルを確認できるガイドレールは、床コンクリートを打ち込んだ後に4m間隔で設置した。
- (2) コンクリート面を指で押しでも少ししか入らない程度になった時に、木ごてで中むら取りを行った。
- (3) 金ごて仕上げの中ずりで、ブリーディングが多かったため、金ごての代わりに木ごてを用いた。
- (4) 最終こて押えの後、12時間程度を経ってから、散水養生を行った。

問題. 6 セルフレベリング材塗り

令和5年度前期 No.41

セルフレベリング材塗りに関する記述として、不適当なものを2つ選べ。
ただし、塗り厚は10mm程度とする。

- (1) 流し込みは、吸水調整材塗布後、直ちに行った。
- (2) 流し込み作業中は、通風のため窓や開口部を開放した。
- (3) 流し込み後は、表面全体をトンボ等を用いて均した。
- (4) 硬化後、打継ぎ部等の突起は、サンダーで削り取った。

能力問題

問題. 7 仕上塗材仕上げ

令和3年度前期 No.41

仕上塗材仕上げに関する記述として、不適当なものを2つ選べ。

- (1) 各工程ごとに用いる下塗材、主材及び上塗材は、同一製造所のものとした。
- (2) 仕上塗材の所要量は、被仕上塗材仕上面の単位面積に対する希釈前の仕上塗材の使用質量から算出した。
- (3) 屋外や室内の湿潤になる場所の下地調整に用いるパテは、合成樹脂エマルジョンパテを使用した。
- (4) シーリング面への仕上塗材仕上げは、シーリング材の硬化前に行った。

第7章 建具工事

能力問題

問題. 1 鋼製建具

令和5年度前期 No.42

鋼製建具に関する記述として、**不適当なものを2つ選べ**。

ただし、1枚の戸の有効開口は、幅950mm、高さ2,400mmとする。

- (1) 建具枠の取付け用のアンカーは、枠の両端を固定して、中間部を900mm内外の間隔とした。
- (2) 建具枠の取付け精度は、対角寸法差を3mm以内とした。
- (3) くつずりは、ステンレス製とし、表面の仕上げをヘアラインとした。
- (4) くつずり裏面のモルタル詰めは、建具枠の取付け後に行った。

問題. 2 鋼製建具

令和4年度後期 No.26

鋼製建具に関する記述として、**最も不適当なものはどれか**。

- (1) くつずりの材料は、厚さ1.5mmのステンレス鋼板とした。
- (2) 四方枠の気密材は、建具の気密性を確保するため、クロロプレンゴム製とした。
- (3) フラッシュ戸の組立てにおいて、中骨は600mm間隔で設けた。
- (4) 大型で重量のある建具の仮止めは、位置調節用の金物を用いた。

問題. 3 鋼製建具

令和3年度前期 No.26

鋼製建具に関する記述として、**最も不適当なものはどれか**。

- (1) 建具枠の取付け精度は、対角寸法差を3mm以内とした。
- (2) 外部に面する鋼製ドアのステンレス製くつずりは、両端を縦枠より延ばし、縦枠の裏面で溶接した。
- (3) 外部に面する両面フラッシュ戸の見込み部は、上下を除いた左右2方のみ、表面板で包んだ。
- (4) くつずりは、あらかじめ裏面に鉄線を付けておき、モルタル詰めを行った後、取り付けた。

問題. 4 建具金物

令和7年度前期 No.41

建具金物に関する記述として、**最も不適当なものはどれか**。

- (1) グレモン錠は、レバーハンドルを回すことで扉の上下からボルトが突出して施錠するもので、高い気密性を要する扉に用いられる。
- (2) フロアヒンジは、床に埋め込む箱形の金物で、自閉機能があり、比較的重量の大きな建具に用いられる。
- (3) モノロックは、デッドボルトとラッチボルトを有する錠で、シリンダー箱錠に比べ防犯効果があり、外部扉に用いられる。
- (4) フランス落しは、両開き建具の召合せ面に彫り込んで取り付ける上げ落とし金物で、錠がつかない側の扉に用いられる。
- (5) グラビティヒンジは、扉側と枠側のヒンジ部の勾配を利用することで、常時開又は常時閉鎖の設定ができる金物で、トイレブースの扉に用いられる。

問題. 5 建具金物

令和5年度後期 No.26

建具金物に関する記述として、**最も不適当なものはどれか**。

- (1) 本締り錠は、握り玉の中心にシリンダーが組み込まれたもので、ラッチボルトがデッドボルトと兼用となっている錠である。
- (2) 鎌錠は、鎌状のデッドボルトを突合せ部分の受けに引っかけて施錠するもので、引き戸に使用される錠である。
- (3) ピボットヒンジは、戸を上下から軸で支える金物で、戸の表面外又は戸厚の中心に取り付ける。
- (4) フロアヒンジは、床に埋め込む箱形の金物で、自閉機能があり、戸の自閉速度の調整をすることができる。

問題. 6 建具金物

令和3年度後期 No.26

建具金物に関する記述として、**最も不適当なものはどれか**。

- (1) モノロックは、押しボタンやシリンダーが設けられており、内外の握り玉の同一線上で施解錠することができる。
- (2) ピボットヒンジは、床に埋め込まれる扉の自閉金物で、自閉速度を調整することができる。
- (3) 空錠は、鍵を用いずに、ハンドルでラッチボルトを操作することができる。
- (4) 本締り錠は、鍵又はサムターンでデッドボルトを操作することができる。

問題. 7 ガラス工事

令和6年度後期 No.25

外部に面するサッシのガラス工事に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) 網入板ガラスは、ガラスの下辺小口及び縦小口の下端より1/4の高さまで防錆処置をした。
- (2) フロート板ガラスの切断面は、エッジ強度の低下を防ぐため、クリーンカット(クリアカット)とした。
- (3) グレイジングチャンネルの継目の位置は、ガラスの下辺中央部とした。
- (4) ガラス溝内に置くセッティングブロックは、ガラス1枚につき2か所設置した。

問題. 8 建具工事全般

令和6年度前期 No.26

建具工事に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) 樹脂製建具は、建具の加工及び組立てからガラスの組込みまでを建具製作所で行った。
- (2) 木製フラッシュ戸の框材には、錠前当たり補強を設けた。
- (3) アルミニウム製建具の組立てに使用する小ねじは、亜鉛めっき処理した鋼製のものを使用した。
- (4) ステンレス製建具のステンレスに接する鋼製の補強材は、錆止め塗装をした。

問題. 9 建具工事全般

令和4年度前期 No.26

建具工事に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) アルミニウム製建具のアルミニウムに接する小ねじは、亜鉛めっき処理した鋼製のものを使用した。
- (2) ステンレス製建具のステンレスに接する鋼製の重要な補強材は、錆止め塗装をした。
- (3) 木製フラッシュ戸の中骨は、杉のむく材を使用した。
- (4) 樹脂製建具は、建具の加工及び組立てからガラスの組込みまでを建具製作所で行った。

第8章 塗装工事

問題. 1 塗装工事の素地ごしらえ

令和6年度後期 No.26

塗装工事における素地ごしらえに関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) 亜鉛めっき鋼面の付着物の除去には、ワイヤーブラシを用いた。
- (2) けい酸カルシウム板面の吸込止めは、穴埋めやパテかいの後に塗布した。
- (3) 鉄鋼面の黒皮の除去は、ショットブラスト処理により行った。
- (4) 木部面の穴埋めは、節止めを行ってからパテを充填した。

問題. 2 塗装工事の素地ごしらえ

令和5年度前期 No.26

塗装工事における素地ごしらえに関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) モルタル面の吸込み止めは、パテかいを行った後に、シーラーを全面に塗り付けた。
- (2) せっこうボード面のパテかいは、合成樹脂エマルジョンパテを使用した。
- (3) 木部面の不透明塗料塗りの節止めは、セラックニスを使用した。
- (4) ALCパネル面の吸込み止めは、下地調整を行う前に、シーラーを全面に塗り付けた。

問題. 3 塗装工事の素地ごしらえ

令和4年度前期 No.42

能力問題

塗装における素地ごしらえに関する記述として、不適当なものを2つ選べ。

- (1) 木部面に付着した油汚れは、溶剤で拭き取った。
- (2) 木部の節止めに、ジंकリッチプライマーを用いた。
- (3) 鉄鋼面の錆及び黒皮の除去は、ブラスト処理により行った。
- (4) 鉄鋼面の油類の除去は、錆を除去した後に行った。

問題. 4 塗装工事の素地ごしらえ

令和3年度前期 No.27

塗装工事における素地ごしらえに関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) モルタル面の吸込み止めは、パテかきを行った後に、シーラーを全面に塗り付けた。
- (2) せっこうボード面のパテかきには、合成樹脂エマルジョンパテを使用した。
- (3) 不透明塗料塗りの木部面は、節止めにセラックニス塗り付けた。
- (4) 鉄鋼面に付着した機械油の除去には、石油系溶剤を使用した。

問題. 5 塗装工事(木質系素地面)

令和5年度後期 No.27

木質系素地面の塗装に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) オイルステイン塗りは、塗付け後、乾き切らないうちに余分な材料を拭き取った。
- (2) 合成樹脂調合ペイント塗りの中塗りは、塗装回数を明らかにするため、上塗りとは色を変えて塗装した。
- (3) つや有合成樹脂エマルジョンペイント塗りは、塗料の粘度の調整を水で行った。
- (4) クリヤラッカー塗りの下塗りは、ジンクリッチプライマーを用いた。

問題. 6 塗装工事全般

令和7年度前期 No.25

塗装工事に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) 押出成形セメント板面の塗装に、合成樹脂調合ペイントを用いた。
- (2) 高粘度、高濃度の塗料による厚膜塗装とするため、エアレススプレーを用いて吹き付けた。
- (3) アクリル樹脂系非水分散形塗料塗りにおいて、下塗りには上塗りと同じ材料を用いた。
- (4) 壁面をローラーブラシ塗りとする際、隅角部やちり回り等は、小刷毛を用いて先に塗布した。

問題. 7 塗装工事全般

令和4年度後期 No.27

塗装工事に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) アクリル樹脂系非水分散形塗料塗りにおいて、下塗りには上塗りと同じ材料を用いた。
- (2) 木部のクリヤラッカー塗りにおける着色は、下塗りのウッドシーラー塗布後に行った。
- (3) 高粘度、高濃度の塗料による厚膜塗装とするため、エアレススプレーを用いて吹き付けた。
- (4) 合成樹脂エマルジョンペイント塗りにおいて、天井面等の見上げ部分では研磨紙ずりを省略した。

能力問題

問題. 8 塗装工事全般

令和3年度後期 No.42

塗装工事に関する記述として、不適当なものを2つ選べ。

- (1) 強溶剤系塗料のローラーブラシ塗りに、モヘアのローラーブラシを用いた。
- (2) オイルステイン塗りの色濃度の調整は、シンナーによって行った。
- (3) モルタル面の塗装に、合成樹脂調合ペイントを用いた。
- (4) 壁面をローラーブラシ塗りとする際、隅やちり回りなどは、小刷毛を用いて先に塗布した。

第9章 内装工事

問題. 1 ビニル床シート張り

令和5年度後期 No.28

ビニル床シート張りに関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- シートを幅木部に張り上げるため、ニトリルゴム系接着剤を使用した。
- 熱溶接工法では、シート張付け後、張付け用接着剤が硬化する前に溶接接合を行った。
- シートを壁面に張り上げるため、床と壁が取り合う入隅部に面木を取り付けた。
- 湿気のおそれのある下地への張付けには、エポキシ樹脂系接着剤を使用した。

能力問題

問題. 2 ビニル床シート張り

令和4年度後期 No.42

ビニル床シート張りの熱溶接工法に関する記述として、不適当なものを2つ選べ。

- 張付け用の接着剤は、所定のくし目ごてを用いて均一に塗布した。
- シート張付けは、空気を押し出すように行い、その後ローラーで圧着した。
- 継目の溝切りは、シート張付け後、接着剤が硬化する前に行った。
- 溶接継目の余盛りは、溶接直後に削り取った。

能力問題

問題. 3 カーペット敷き

令和6年度前期 No.41

カーペット敷きに関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- タイルカーペットは、粘着剥離形の接着剤を用いて張り付けた。
- グリッパー工法に用いるグリッパーは、壁に密着させて取り付けた。
- ウィルトンカーペットは、はぎ合わせを手縫いでつづり縫いとした。
- タフテッドカーペットの敷込みは、全面接着工法とした。
- タイルカーペットの目地は、フリーアクセスフロアの目地とずらして割り付けた。

問題. 4 カーペット敷き

令和4年度前期 No.27

カーペット敷きに関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- タイルカーペットは、粘着はく離形の接着剤を用いて張り付けた。
- タイルカーペットは、フリーアクセスフロアのパネル目地とずらして割り付けた。
- グリッパー工法に用いるグリッパーは、壁に密着させて取り付けた。

- グリッパー工法に用いる下敷き用フェルトは、グリッパーよりやや厚いものとした。

問題. 5 フローリングボード張り

令和7年度前期 No.26

釘留め工法によるフローリングボード張りに関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- 根太張り工法におけるフローリングボードは、厚さが10mmの単層フローリングボードを用いた。
- 根太張り工法におけるフローリングボードを張り込む際、隣接するボードの継手位置を離して割り付けた。
- フローリングボードを下張り用床板に張り付ける際、下張り用床板に接着剤を波状に150g/m²程度塗り付けた。
- 壁、幅木、框及び敷居とフローリングボードの取合いには、板の伸縮に備えた隙間を設けた。

問題. 6 フローリングボード張り

令和5年度前期 No.27

床のフローリングボード張りに関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- 壁、幅木、框及び敷居とフローリングボードの取合いには、板の伸縮に備えた隙間を設けた。
- 張込み完了後の表面に生じた目違いは、養生期間を経過した後、サンディングした。
- 接着剤張り工法のため、接着剤は専用のくしべらを使用し、均等に伸ばして塗り付けた。
- 釘留め工法の根太張り工法のため、根太の上に下張りを行い、フローリングボードを接着剤を併用して張り込んだ。

能力問題

問題. 7 フローリングボード張り

令和3年度前期 No.42

床のフローリングボード張りに関する記述として、不適当なものを2つ選べ。

- フローリングボードに生じた目違いは、パテかきにより平滑にした。
- フローリングボード張込み後、床塗装仕上げを行うまで、ポリエチレンシートを用いて養生をした。
- フローリングボードの下張り用合板は、長手方向が根太と直交するように割り付けた。
- 隣り合うフローリングボードの木口の継手位置は、すべて揃えて割り付けた。

問題. 8 せっこうボード張り

令和6年度後期 No.27

壁のせっこうボード張りに関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) 鋼製下地に張り付ける場合のドリリングタッピンねじの頭は、ボード面と同面となるように締め込んだ。
- (2) 重ね張りの上張りボードは、接着剤とステープルを併用して張り付けた。
- (3) 目透し工法で仕上げる場合、スクエアエッジのボードを使用した。
- (4) 出隅部には、衝突による損傷防止のため、コーナー保護金物を使用した。

問題. 9 せっこうボード張り

令和3年度後期 No.27

壁のせっこうボード張りに関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) ボードを突付けとせず隙間を開けて底目地を取る目透し工法で仕上げる壁は、スクエアエッジのボードを使用した。
- (2) 鋼製下地に張り付ける場合のドリリングタッピンねじの頭は、仕上げ面の精度確保のため、ボード面と同面となるように締め込んだ。
- (3) 鋼製下地に張り付ける場合のドリリングタッピンねじの留付け間隔は、ボードの中間部より周辺部を小さくした。
- (4) ボードの重ね張りは、上張りとは下張りのジョイント位置が同位置にならないように行った。

問題. 10 フリーアクセスフロア

令和7年度前期 No.27

フリーアクセスフロアに関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) クリーンルームでは、床下に作業者が入れるように、根太や大引等の下地を設けてパネルを支持する根太方式とした。
- (2) 床パネルの表面材は、コンピュータ等の誤動作の原因とならないように、帯電防止性能をもつタイルカーペットとした。
- (3) 床パネルの各辺の長さが500mmだったため、幅及び長さの寸法精度は、±0.5mm以内とした。
- (4) 高さ調整機能のない置敷きスペーサー方式の床パネル取付け後の水平精度は、隣接する床パネルどうしの高さの差を2mm以下とした。

問題. 11 フリーアクセスフロア

令和4年度後期 No.28

フリーアクセスフロアに関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) 電算機室では、床パネルの四隅の交点に共通の支持脚を設けて支持する共通独立脚方式としたため、方杖を設けて耐震性を高めた。
- (2) 事務室では、1枚のパネルの四隅や中間に高さ調整のできる支持脚が付く、脚付きパネル方式とした。
- (3) 床パネルの各辺の長さが500mmだったため、幅及び長さの寸法精度は、±0.5mm以内とした。
- (4) 床パネル取付け後の水平精度は、隣接する床パネルどうしの高さの差を2mm以下とした。

能力問題

問題. 12 カーテン工事

令和6年度後期 No.41

カーテン工事に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) レースカーテンのカーテンボックスは、窓幅に対して片側各々150mm長くした。
- (2) カーテンレールに取り付けるランナーの数は、1m当たり4個とした。
- (3) カーテンの両脇及びその縁加工は、伏縫いとした。
- (4) レースカーテンの上端の縁加工は、カーテン心地を入れて袋縫いとした。
- (5) カーテン上端の折返し長さは、使用するフック(ひるかん)の長さにより定めた。

問題. 13 カーテン工事

令和3年度前期 No.28

カーテン工事に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) カーテン上端の折返し長さは、使用するフック(ひるかん)の長さにより定めた。
- (2) 引分け式遮光用カーテンは、中央召合せを300mmとした。
- (3) レースカーテンのカーテンボックスは、窓幅に対して片側各々150mm長くした。
- (4) レースカーテンの上端の縁加工は、カーテン心地を入れないで袋縫いとした。

第10章 外装工事

問題. 1 押出成形セメント板張り

令和5年度前期 No.28

外壁の押出成形セメント板(ECP)横張り工法に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) 取付け金物(Zクリップ)は、パネル小口より80mm離れた位置に取り付けた。
- (2) 取付け金物(Zクリップ)は、パネル1枚につき左右両端部2か所ずつ4か所取り付けた。
- (3) 取付け金物(Zクリップ)は、下地鋼材にかかり代を20mm確保して取り付けた。
- (4) 取付け金物(Zクリップ)は、下地鋼材に溶接長さを15mm確保して取り付けた。

第11章 仕上げ改修工事

能力問題

問題. 1 外部仕上げ改修工事

令和5年度後期 No.42

外壁仕上げの劣化とその改修工法に関する記述として、不適当なものを2つ選べ。

- (1) コンクリート打放し面のひび割れは、ポリマーセメントモルタル充填工法で改修した。
- (2) 劣化した既存複層仕上塗材は、高圧水洗で除去した。
- (3) タイル張り仕上げの浮きは、Uカットシール材充填工法で改修した。
- (4) モルタル塗り仕上げの浮きは、アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法で改修した。

問題. 2 外部仕上げ改修工事

令和3年度後期 No.28

外部仕上げ改修工事に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- (1) 既存防水層撤去後の下地コンクリート面の軽微なひび割れは、新規防水がアスファルト防水のため、アスファルト防水用シール材により補修した。
- (2) コンクリート下地面の複層仕上塗材の既存塗膜の劣化部は、高圧水洗工法にて除去した。
- (3) 既存露出アスファルト防水層の上に、アスファルト防水熱工法にて改修するため、下地調整材としてポリマーセメントモルタルを用いた。
- (4) 外壁石張り目地のシーリング材の劣化した部分を再充填工法にて改修するため、既存シーリング材を除去し、同種のシーリング材を充填した。

問題. 3 内部仕上げ改修工事

令和6年度前期 No.27

内部仕上げの改修工事に関する記述として、最も不適当なものはどれか。
ただし、除去する資材は、石綿(アスベスト)を含まないものとする。

- (1) モルタル下地の磁器質床タイルの張替え部は、研りのみを用いて、手作業で存置部分と縁切りをした。
- (2) モルタル下地面に残ったビニル床タイルの接着剤は、ディスクサンダーを用いて除去した。
- (3) コンクリート壁下地に塗られたモルタルは、一部軽微な浮きが認められたため、アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法で補修した。
- (4) コンクリート間仕切壁は、振動の発生を抑えるため、空気圧式のハンドブレッカーを用いて研りを行った。

問題. 4 既存床仕上材の除去

令和4年度前期 No.28

内装改修工事における既存床仕上材の除去に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

ただし、除去する資材は、アスベストを含まないものとする。

- (1) ビニル床シートの除去は、カッターで切断し、スクレーパーを用いて他の仕上材に損傷を与えないように行った。
- (2) モルタル下地の合成樹脂塗床は、電動研り器具を用いてモルタル下地とも除去した。
- (3) 根太張り工法の単層フローリングボードは、丸のこを用いて根太下地を損傷しないように切断し、除去した。
- (4) モルタル下地の磁器質床タイルの張替え部は、研りのみを用いて手作業で存置部分と縁切りをした。

第4編 施工管理法

令和7年度前期～令和3年度前期 問題

【本試験内容(昨年度の例)】

区分	細目	問題番号	出題・解答数	解答形式	選択/必須(知識/能力)
施工管理法	施工計画	No. 28～37	出題数 10 問 解答数 10 問	四肢択一 (マークシート)	必須 (知識)
	工程管理				
	品質管理				
	安全管理	No. 38～42	出題数 5 問 解答数 5 問	五肢択一 (マークシート)	必須 (能力)
能力問題					

	問題 ページ	解説 ページ
第1章 施工計画	118	274
第2章 工程管理	127	282
第3章 品質管理	133	288
第4章 安全管理	142	296